

製品名: DCX マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81147**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間、マウス、ラット、ウサギ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	49.3kDa

抗原情報

遺伝子名	DCX
別名	DC; DBCN; LISX; SCLH; XLIS
遺伝子 ID	1641.0
SwissProt ID	O43602
免疫原	大腸菌で発現したヒト DCX (AA: 362-411) の精製された組み換え断片。

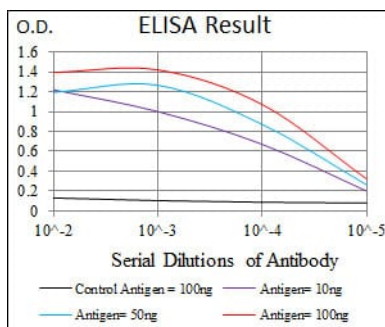
背景

この遺伝子はダブルコルチンファミリーのメンバーをコードしています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は細胞質タンパク質であり、微小管に結合する2つのダブルコルチンドメインを有しています。発達中の大脳皮質において、皮質ニューロンは最

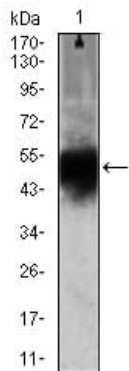
終分化部位に到達するために長距離を移動しなければなりません。コードされているタンパク質は、微小管の組織化と安定性を調節することでニューロンの移動を誘導すると考えられます。さらに、コードされているタンパク質は、血小板活性化因子アセチルヒドロラーゼの調節性γサブユニットである LIS1 と相互作用し、この相互作用は発達中の大脳皮質における微小管の適切な機能にとって重要です。この遺伝子の変異は、発達中のニューロンの移動異常を引き起こし、大脳皮質の層構造を破壊します。その結果、てんかん、精神遅滞、女性では皮質下帯状異所症（「ダブルコルテックス」症候群）、男性では滑脳症（「スムーズ・ブレイン」症候群）を引き起こします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。

研究分野

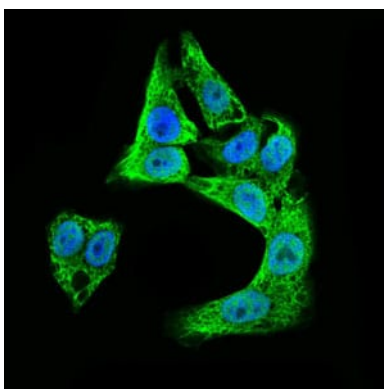
画像データ



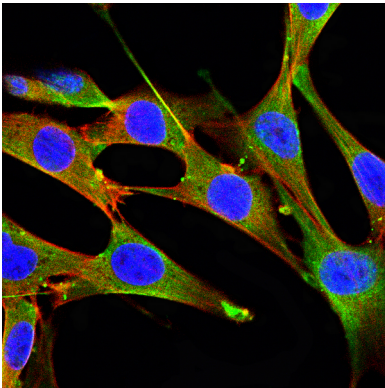
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



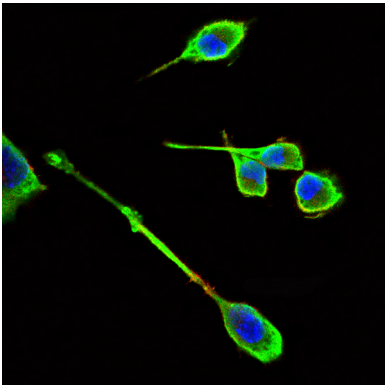
マウス心臓 (1) 溶解物に対する DCX マウス mAb を用いたウエスタンブロット分析。



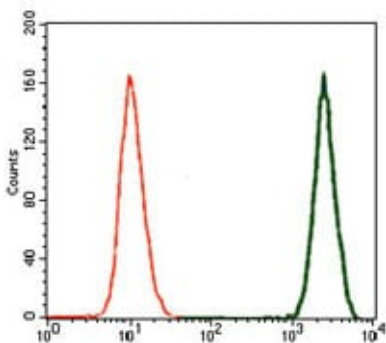
DCX マウス mAb (緑) を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



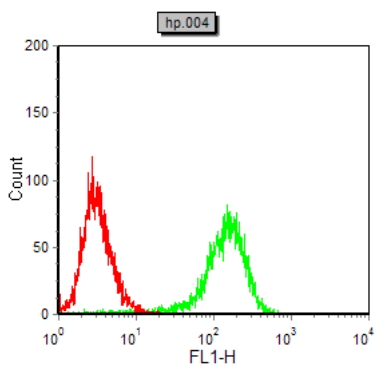
DCX マウス mAb (緑) を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



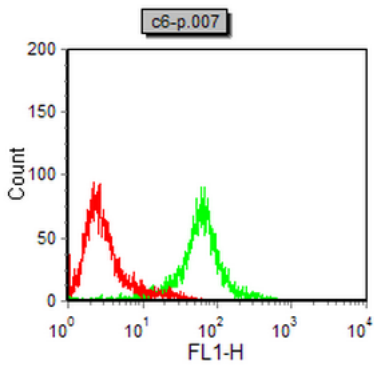
DCX マウス mAb (緑) を用いた RSC-96 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



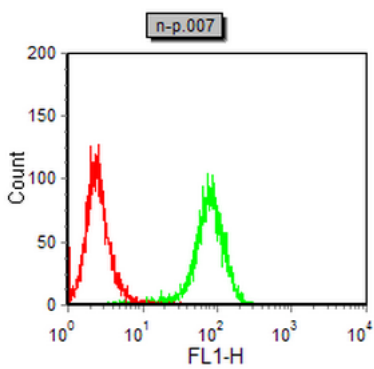
DCX マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した SK-N-SH 細胞のフローサイトメトリー分析。



DCX マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



DCX マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した C6 細胞のフローサイトメトリー分析。



DCX マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した NIH/3T3 細胞のフローサイトメトリー分析。